

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24 年 10 月 23 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471100986		
法人名	株式会社 アーバン・ケア		
事業所名	グループホーム すずらん		
所在地	広島県尾道市高須町4834-6 (電話) 0848-55-1355		
自己評価作成日	平成24年10月3日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3471100986-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成24年10月18日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

東尾道公園に面し、いつも子供の明るい声が聞こえる環境で、気候の良い時期は公園に散歩に出かけ地域の人と触れ合いを持つ事ができる。又ホームの5分圏内にお店が立ち並び買物しやすい環境でもある。入居者の方は開設間もない時から住んでいらっしゃる方が3分の1を占めており約10年近くを当施設で過ごし、平均年齢も91歳と高齢化してきたが、スタッフとなじみの関係ができており、思いを伝える事や、発語が困難になっても入居者の思いがくめるような温かい関係が築けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

・入居者の方々は、明るい笑顔で傍にいて話しかけてくれる職員との関わりの中から、入居者自身が自己の価値を見いだせて、生きる意欲を高められる支援を受けている。その一つとして、近隣の幼稚園にプレゼントすることを楽しみに、ちぎり絵を使いながら紙芝居を作成されており、完成を目指して生きがいのある日々を過ごされている。
・入居者の方々の社会参加と、地域の人たちとの交流を今以上に深めるために、職員の工夫やアイデアを活かして、ホーム独自のフリーマーケットを開催するなど、管理者と職員が一体となってホームを「良くしていくには?」を常に考えながら取り組む前向きな姿勢が伺える。
・全職員は常日頃から入居者やその家族の思いを大切にし、喜怒哀楽をともにしながら困難な介護を一緒に取り組んでいる。また、常に基本に沿った誠実な取り組みは、家族への安心と信頼につながっており、契約終了後にも関わらず多くの家族の来訪や、ボランティア等としての協力が有り絆ができています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	スタッフは理念をしっかりと理解し、共有しあい実践に取り組んでいる。	全職員は理念をよく理解したうえで、家庭的な雰囲気の中で一人ひとりにあった支援と、地域の一員としての活動や関わりを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入れていただき地域の一員としてできる限り行事に参加する体制作りに取り組んでいる。	開所時から、全職員で地域を知り近隣の人たちも大切に思いやり、活動に参加したり、散歩や買い物等の挨拶を欠かさないうことで、声をかけたりかけられたりという普通の近所づきあいが出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	散歩や近隣の買物・施設主催のバザー等、地域の方と日々の交流を通してグループホームの啓発に努めている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営会議の議題として必ず取り上げ地域の方、家族の方の生の声を聞かせて頂きサービスの向上に努めている。	会議では家族代表、地域住民代表、行政及び地域包括支援センター職員の参加を得て、ホームでの活動状況や入居者の状態、災害時の避難や誘導など様々な支援について話し合っている。また、事業所から福祉・介護制度に関することや医療・健康等に関する情報提供も行われている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	高齢者福祉課には特に頻りに電話や直接出向くなどして相談し指導を頂いている。介護保険法改正後も何かとご指導・助言を頂き適切な運営に努めている。	市担当者や地域包括支援センター職員とは、協力体制が構築されており、事業所運営に活かすことが出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>「身体拘束ゼロの手引き」をスタッフで研修し、正しく理解し取り組んでいる。</p>	<p>職員は身体拘束に当たる具体的な行為について内外の研修で理解しており、拘束をしない取り組みを徹底している。職員の見守りと工夫により、1階の玄関の鍵は施錠されていない。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>外部研修には必ず参加し、受講者は施設内研修で発表し絶対にあってはならない事として全スタッフに働きかけている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>家族・地域の方にも案内し、権利擁護について有識者を呼び、勉強会を開き意見交流をした。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に契約書に添って説明し、その場で理解納得していただくようにしている。十分説明を行い、納得の上で承諾書を頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会で自由に意見が出せる場を作っている。施設に直接言いにくい事は家族会会長を通して伝えられるシステム作りをし、玄関にご意見箱の設置もしている。</p>	<p>家族会や運営推進会議の中で意見や思いを伝えられる機会を作っている。遠方の家族には電話で話せるよう導き、出された意見は運営に反映するように努めている。定期的にホーム便りを発行している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議にて職員の日々の思いや業務的な事も自由に発言できる。代表者はその意見をしっかりと反映してくれる。	全職員は話しやすい雰囲気の中で、アイデアや気づき、情報交換等を話し合いながら更なる向上を目指している。出された意見や提案については、職員会議などで話し合い、取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員会議での話をもとに、働きやすい職場作りを常に考え、皆が長く働ける職場整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修会及び講演会の研修費は会社が負担し職員のスキルアップを促している。研修日は出勤とし、勉強内容をレポート及び社内会議で報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	運営者は、近隣の同業者と交流を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前に家族や本人との面接の機会を持ち、色々な思いを聞かせていただき話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居決定までには来所又は電話により、家族が納得できるまで相談窓口を作り、不安を抱かえたまま契約にならないようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>当ホームを家族が希望しても、面談をしてみて、入所より在宅が適当であると感じた場合、家族の介護負担も軽減する支援方法を提案している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>スタッフが時には子供になり、時には親になり、入居者と喜怒哀楽を共にし、日々の生活の中で人生の先輩より学ぶことが多々あり、それが働いている楽しさでもある。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>入居者と家族とスタッフが家族的関係になり、何でも話し合いながらよりよいケアをしていく事を理想としているが、面会にもなかなか来て下さらない家族もいる。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの方との伝達手段は途切れないように支援している。（電話・手紙・面会）</p>	<p>出来るだけ自由な雰囲気や時間を、との考えを取り入れており、面会者や馴染みの人との交流を積極的に支援している。また、本人が出かけて行くことへの要望に応じる用意が準備されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人一人の現状に合わせてテーブル席を替えたり入居者同士の関わりが円滑に保てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入居者の契約終了後（退去又は死去後）も家族の方々が遊びに来て下さったり、ボランティアの申し出や介護相談に足を運んで下さるなど関係が続いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	年々思いや暮らし方の希望など聞き取りが難しくなっている現状。しかし日々のケアの中で思いを組んだ対応を心がけている。	入居者の思いや意向は、日頃の関わりの中や家族からの聞き取りで把握している。困難な場合は表情、しぐさ、行動から本人本位に職員間で検討し、共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家庭の延長になるよう雰囲気作りに心がけ入居前生活歴の聞き取りを重要視し、環境の変化を最小限にする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一日の生活の流れを大切に、日々の心身の状態を把握して無理の無いよう生活支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>モニタリングを基本に、家族・スタッフで話し合い、ケアプランの作成をしているが、本人の希望を聞き取る事が難しく、日々の対応で知り得た情報より、思いを酌んでの介護計画となっている。</p>	<p>本人の意見や思い、家族の要望を詳細に把握し、職員間で十分に話し合いプランを作成している。 モニタリングで気づきやアイデアを話し合い、見直しを行い現状に即したプランにしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録はきちんと記録している。情報は家族にも公開し、介護計画の見直しにも活かされている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>高齢化している中ニーズも年々変化している為、ケアプランに基づき柔軟な支援に取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>民生委員・ボランティア・地元学校関係の受入をし、警察・消防には認知症対応ということで、緊急事態の為にリスト作りをして頂き協力体制を作っていただいている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>主治医とは連携を密にし、小さな体調の変化も見逃す事なく連絡し、指示をあおいでいる。</p>	<p>医療機関との連携は充分に行っており、緊急時の受診にも速やかに対応して貰える体制となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>体調の変化心身の状況をナースに相談し、適切な指示を受け、介護職員はケアにあたっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院に出向き、情報交換・相談に勤め、入退院がスムーズに進むよう病院関係者と互いによりよい関係を作っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合、主治医・家族・施設側で十分な話し合いを持ち、お互いが納得し方針を決め実践にあたっている。</p>	<p>本人や家族の気持ちや考えを大切にすることを優先し、医療機関や家族等と連携を図りながら事業所として出来る最大の対応と支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>カンファレンスで話し合ったり研修で学ぶなど、急変時の対応や手当ては皆が身につけている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>自治会の方への協力は、運営推進会議でお願いしている。又避難訓練は年2回行なっている。</p>	<p>災害については、研修等を通じて十分な理解をしており、避難についても細かい取り決め等も行っている。地域や、消防署、警察との情報交換及び災害時等の協力体制も構築されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーポリシーはマニュアルを作り意識の統一化をしている言葉かけの対応については毎月のカンファレンスで注意を促し、より良い施設作りに取り組んでいる。	親しみを込めた言葉の中にも、本人を尊重した、適切な言葉かけや、排泄や入浴の際も個別に対応し、デリケートな部分に考慮しながら支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の会話の中で本人の思いをくめるよう働きかけているが、表出する事ができにくい方もおり、自己決定の場も心がけてはいるが一部の方に限られている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	無理強いすることの無いよう日々の介護にあたっているが、職員側の都合を優先することもあり反省点でもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時の更衣は、利用者と相談しながら服装を決めたり、お化粧を日課としている方もいる。理容については2ヶ月に1度、訪問理容をお願いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	手伝える方が限られているが、下ごしらえ・食器拭きなどは手分けして職員と共に進んで日々の仕事として定着している。	調理中や、配膳の準備など入居者個々の状態に合わせて、職員とともに行い、出来た料理を職員も入居者と一緒に世間話などしながら食べ、心地の良い食事環境になるように日々取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人一人の嗜好、食事量を把握し、配膳に工夫している。歯の状態、嚥下の難しい方には刻んだり、とろみをつけ食べやすいよう配慮している。水分補給は食事以外の時にも度々機会を作り、水分量の確保に気をつけている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>起床時、毎食後の口腔ケアの声かけ、誘導をしている。出来るところは自力で、出来ないところを援助する。義歯は就寝前に洗浄液につけ清潔を保つ。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人一人のパターンを把握し、なるべく失敗を減らし、トイレで排泄できるように声かけ誘導している。一人一人の能力に応じて介助を行なっている。</p>	<p>入居者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。リハビリパンツやパットの使用には、誘導や声かけで失敗を減らす支援に努めている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>体操・レクリエーション・散歩により身体を動かす事、食事時、食間、入浴時の水分補給を心がける。排便チェック表を作成し、個人の周期を把握した上でトイレ誘導をしている。便秘傾向の方が多く、まだまだ薬に頼っている実情である。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>個々の曜日は決めていないが、時間帯はほぼ決まっている。入浴時は職員との会話を楽しんでいる。</p>	<p>事前に声かけや意思確認を行い、本人のその日の気分や状況に合わせて楽しみとしての入浴支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>休憩時間を決めてはいるが、居室に戻ることが好まない方はリビングで過ごすなど、その人に合った休息の支援をしている。夜間も一人一人のリズムに合わせて対応している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の処方が変わった時は薬剤師の方に説明を受け、その後の体調の変化も連絡を入れている。スタッフ全員処方箋には目を通し薬を理解している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>その人の役割を見つける事、そして持っている力を発揮できるよう常に心にとめて介護にあたっている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>なるべく外出できるよう（散歩など）努めているが、家族や地域の人との協力は得られていない。</p>	<p>入居者の気分や希望に沿って、近隣の公園や買い物、町内会の行事等に参加している。 また、本人の希望先への外出や知人宅等への訪問にも積極的に支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>買物に出かける事が難しい方には施設内でお店を開き、お金を使う楽しみを支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>伝達の手段は妨げないよう、途切れないよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居者の生活の大半を過ごすスペースは季節感を感じられるよう壁画作りをし、楽しくのんびり過ごせる空間作りを心がけている。</p>	<p>明るく、ゆったりとしたリビングには不自然なものがないように、入居者の目線に沿って工夫がなされている。季節に合わせた飾り物や、家族と一緒に参加された行事の写真が飾られ、居心地のよい人間関係の中で入居者は思い思いに寛いでいる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>トラブルにならないよう、又孤立しないよう、入居者同士の席は常に検討し、その都度変えている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>思い出のあるもの、馴染みの物など、自由に持ち込んで頂き、居心地の良い雰囲気作りを心がけている。</p>	<p>本人や家族と相談して、長年親しんだものに囲まれ、安心して落ち着いて居心地良く過ごせるように配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ケアプランに基づき、安全第一に本人の意思を尊重して、安全に生活ができるよう支援している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームすずらん

作成日 平成 24年12月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練は行っているがスタッフ増員体制で実施しているのが現状	少人数、もしくは、夜間想定での避難訓練	建物が二階なので特に二階の方の避難誘導は難しいが少人数でやってみる	1年間以内
2	55	入居者の高齢化により一人ひとりの「わかる事」の把握又、役割を見つけてあげることが難しくなってきた	一人ひとりの力を生かす取り組み	担当スタッフが中心となり家族の協力も頂きながら個別ケアに力を注ぎ、一人ひとりの思いを汲み実現していく	1年間かけて
3	37	だんだんと意思表示が難しくなって自分で、選ぶという場面が少なくなってきた	自己決定の場を作る取り組み	提供するだけでなく小さな事柄でもよいので選択するという場面を作っていく	3ヶ月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。